

フッサール・データベースの新段階

—データの追加とホームページの開設—

浜渦 辰二

A new Stage of the Husserl-Database

--- Doubled Data and Opening a Homepage ---

Shinji, HAMAUZU

SUMMARY: Since a few years ago I am engaged in building the Husserl-Database with co-researchers. Husserl is a modern German philosopher (1859-1938) who let a lot of unpublished manuscripts. It is therefore worth while making his texts machinereadable and analysing them with a computer. Although we built full-text-database from his complete works "Husserliana", 5 volumes in the first year 1994, and would like to make them public, we could not get a permission from the Dutch publisher that have copyright of these works. So, we searched about 400 key words in our full-text-database and made only search results public with the name of "Husserl-Database" via FTP of the Internet in April of last year 1995. The Husserl-Database is accordingly a collection of search results of key words in "Husserliana". After then we built full-text-database from other 6 volumes in last year and added search results from these volumes to the Husserl-Database in April of this year. At the same time we have opened a Homepage of the Husserl-Database in WWW. By means of this Homepage it has become very easy and comfortable to access the Husserl-Database. We have achieved half of our aim, but our project is still underway.

1. はじめに

わたしは、二年ほど前から共同研究者とともにフッサール・データベースの構築に取り組んでいます。フッサールというのは現代ドイツの哲学者（1859-1938）で、死後膨大な未刊草稿を残した人です。テキストの性格上、電子テキスト化されることが期待されて来ました。わたしたちは最初の年（1994年）、『フッサール全集』の5巻分についてフルテキストを作成し、それを公開したいと考えていましたが、著作権をもっているオランダの出版社から許可を得られませんでした。そこで、わたしたちはさきのフルテキストに対して検索ソフトを使って、400余りのキーワードについて検索作業を行い、この検索結果のみをインターネットのFTPを利用して、昨年1995年4月に「フッサール・データベース」として公開するに至りました。したがって、それは『フッサール全集』における特定のキーワードについての検索結果を集めたものです。その後もわたしたちは作業を継続し、同全集の新たに6巻分についてフルテキストを作成し、同様にして作成された検索結果を、今年1996年4月にフッサール・データベースに追加することができました。また同時に、わたしたちはWWW上にフッサール・データベースのホームページを開設いたしました。

2. フルテキストの作成

わたしがたずさわっている哲学の分野でも、機械可読な電子テキストとなった哲学の文献をさまざまなかたちで研究に利用しようとする動きが広まりつつあります。現在、哲学文献の電子（フル）テキストはおよそ三つの方法で入手することができます。第一は、CD-ROMないしフロッピー・ディスクによるもの。第二は、インターネットで公開されているもの。第三は、世界の各所で研究者達によって制作されているもの、の三つです。わたしが研究して来ているフッサールという哲学者のテキストは、いずれの方法でも入手できず、出版社かどこかの研究者達が作ってくれるのを待ってられないわたしたちは、世界中どこでもそういう作業をやっていないようだという確認ののち、幸い、1994年度の科学研究費の援助を得て、自分たちで作成することを始めました。

入力は、パソコン（Mac）上でスキャナーとOCRソフトを使って行いました。作業の進展とともに認識率は格段に向上しましたが、フッサールが通常の辞書には載っていないような特殊なタームあるいは造語を使うことが多いという事情もあって、OCRソフト上の辞書によるスペル・チェックには限界があり、最終的には人間の眼による校正が欠かせません。校正は、読み取りデータをワープロソフトに移植し、プリント・アウトしたものをオリジナル・テキストと照合し、その照合結果をワープロソフト上で校正するという段取りで行われました。ここに、このワープロソフトのファイルとして、第一段階のフルテキストが完成（あくまで暫定的に）しました。

とは言っても、これは何のコード化も施されていないプレーンテキストです。つまり、スキャナーで読み取られたままに、改行位置はオリジナルテキストを維持していますが、本文と脚注が区別なく交互に連なっており、オリジナルテキストの頁数は入っていない。また、ドイツ語に固有の文字(ä, ü, ö, ß)は維持していますが、イタリックとゲシュペルトによる強調は、将来のコード化のことを考慮して、あえてここでは校正しないままにしています。

3. 検索作業

電子テキストを作成する目的は、言うまでもなくそれを単に画面で読むことではなく、コンピュータによる検索および文章解析を可能にすることにあります。この検索および文章解析をするソフトとしては、わたしたちもいくつか検討してみましたが、結局、哲学研究者が自ら作成したという事情もあって、以前から哲学の分野で利用されてきている或るテキスト・データベース作成・運用プログラムを利用することにしました。これはMS-DOS上で動くソフトであるため、わたしたちの第一段階のフルテキストをMS-DOSファイルに落とし（それに伴って、ドイツ語に固有の文字を別の記号で置き換え）たうえで、このプログラム用のコード（タイトル、頁数、イタリックによる強調などを表示するもの）を付加した第二段階のフルテキストが完成しました。本文と脚注も切離し、別々に検索できるようにしました。

この第二段階のフルテキストに対して、検索の作業を行いました。検索語については、わたしたち共同研究者のあいだで充分検討をしたうえで、400語（のちに465語）のキーワードを厳選し、これらについて検索の作業を行いました。先のプログラムでは、単語だけでなくフレーズの検索もできますし、また検索以外の作業もできますが、とりあえ

ずこれだけを公開し、利用者から希望があれば、ほかの作業を行ってもよいと考えてのことです。原書にして400頁くらいの巻で或る1語を検索すると、10秒ほどでこの巻におけるすべての出現箇所の数と行数を5桁の数字で表示してくれます。400の検索語のリストを作っておけば、或る巻について一挙に400語について検索の作業を行い、結果を保存させることができます。この検索結果を語頭のアルファベット別のファイルに編集し、それを巻ごとにまとめたのが、公開されたフッサール・データベースの内容です。

4. 著作権について

はじめわたしたちは、フルテキストのデータベースを研究者のあいだで公開したいと考えていました。それは、日本でこれまで他の哲学者のテキスト・データベースの場合、一定の研究者のあいだでという制限つきであれ、比較的容易に出版社から許可を得られたという経緯があったため、わたしたちも同様に許可を得られると思っていたわけです。フッサールの没年は1938年で、生前出版物については著作権の保護期間は過ぎていますが、1950年から刊行の始まった『フッサール全集』はオランダの出版社が編集著作権を持っており、この『フッサール全集』版を利用しているわたしたちも、この出版社からの許可が必要となります。ところが、この出版社からは「CD-ROM化する計画があるので、公開を許可することはできない」との返事を受け取りました。そんな次第で、フルテキストを公開することは断念し、さきのような検索結果のみを「フッサール・データベース」という名のもとに、インターネットのFTPの機能を利用して公開することにしました。

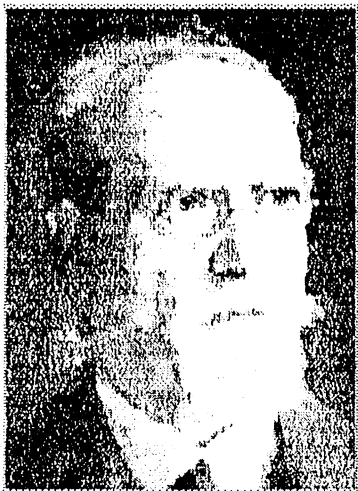
この公開方法は、著作権の問題を避けるというばかりでなく、別のメリットを生むことにもなりました。つまり、たとえフルテキストを入手しても、それが実際どれだけ利用価値を持つかは、検索・文章解析プログラムをどれだけ利用できるかにかかっていますが、この利用はまだ素人には困難なところがあります。その点、わたしたちのフッサール・データベースは検索結果を直ちに得ることができ、また、利用者の希望によってデータをどんどん増やすこともできます。ここに、双方向的なデータの交換を可能にするインターネットの利点を大いに利用することができるわけです。

5. フッサール・データベースの新段階

その後もわたしたちは作業を継続し、昨年(1995年)度には『フッサール全集』の新たな6巻分について、先と同様にまずはフルテキストを完成し、その後同様にして作成された検索結果を今年1996年4月1日にフッサール・データベースに追加することができました。これによってデータは倍増し、11巻分の検索結果となり、目標にしていた現在既刊の『フッサール全集』の半分近くに達することになりました。

また、同時に、WWW上にホームページを開設することができました(次頁の上段に最初のページのコピーを掲載)。それは、フッサール・データベースの説明書関係のファイルや紹介論文をHTML化して読みやすくし、これらを読んだうえで、FTPに保存されたデータに入っていくようにしたものです。WWWブラウザはこのようにFTPの機能をカバーするだけでなく、直ちに電子メールを送ることができる機能も持っているため、双方向的なデータの交換というわたしたちの主旨が充分生かされることになるとともに、フッサール・データベースにアクセスすることが遙かに容易にまた快適になりました。

Welcome to the Husserl-Database



Go to: [Japanese Version](#).

- [Who is Edmund Husserl?](#)
 - [What is the Husserl-Database?](#)
 - [Papers about the Husserl-Database](#)
 - [Links to other philosophical sites](#)
-

Last Updated: 1. April, 1996

Copyright: [The Japanese Project Team for building the Husserl-Database](#)

This page is maintained by [HAMAUZU, Shinji.](mailto:HAMAUZU, Shinji.jsshama@hss.shizuoka.ac.jp)

6. フッサール・データベースの将来

昨年秋、前述の出版社の企画マネージャの人とドイツで会い、わたしたちのフッサール・データベースの件と出版社のCD-ROM化計画とについて情報を交換し合う機会がありました。わたしたちの作成してきたフルテキストを出版社のCD-ROM化計画に統合する可能性について、現在は電子メールのやりとりをしながら、双方で検討を重ねている段階です。そして、そういう話になれば、わたしたちのプレーンテキストをSGML化することを考えています。しかし、それは出版社の事情もあり、いつのことになるか分からない計画ですので、わたしたちとしては、その計画の進展にとらわれることなく、わたしたちのフッサール・データベースの作業を継続していきたいと考えています。

その際、検索の作業については、フルテキストをMS-DOSファイルに落としてMS-DOS上で動くプログラムを利用する、という煩瑣な方法をとらなくてもいいようにしたいと考えています。また、まだ勉強不足でよく分からないのですが、できたら、CGI (Common Gateway Interface)として動く検索プログラムを利用したいと考えています。ただ、それがわたしたちの期待するような検索の作業を行ってくれるか、また、フルテキストの著作権に抵触しないようにできるか、が問題となるでしょう。その意味では、これまで採用してきた検索作業が、新しいプログラムを選択する際の基準になるとともに、また、先のCD-ROM化計画においても、CD-ROM化された電子テキストの利用価値は検索ソフトに掛かっているとも言えるわけで、そこでも、わたしたち研究者がどういうデータを欲しがっているのかという基準にもなると思われます。

わたしたち研究者は、暗中模索の状態でフッサール・データベースを作成・公開してまいりました。会員の皆様にも、助言・意見・援助を仰ぎたいと思っています。

(静岡大学 Shizuoka University)